円仁（794～864年）は仏教文化を吸収するため838年に唐に渡る際、赤山の神に守護を願い、願いがかなえば日本に帰国した後、禅院を建てて仏教を広め恩に報いると誓った。9年に渡る旅を終えて無事帰国を果たした円仁は、横川に赤山明神を勧請したが、禅院を建てることなく死去した。円仁の誓いを果たすため、安慧（あんね 794－868？）をはじめとする円仁の弟子たちが仁和四年（888）に山麓に赤山禅院を建立した。その後、円仁の遺法に従い、横川の僧たちは如法堂の守護社として新たに社を建て、赤山明神祀った。これがのちの赤山宮とされる。

長寿と厄除け、方除けにご利益がある。